

この人に インタビュー

INTERVIEW

道の駅 志野・織部

駅長 小木曾正博 氏

インタビュー

広報委員会から

(株)金幸米川商店 米川 良一・(協業)肥田セラム 林 繁巳

(株)フォーバイフォーエンジニアリングサービス 松本 信廣



(株)志野・織部

〒509-5171

土岐市泉北山町2-13-1

TEL 0572-55-3017

FAX 0572-55-3020

今回は土岐市に出来た道の駅「志野・織部」が、オープン当初から大変賑わっているとの評判を聞き、法人会の皆さんに是非紹介したいと駅長さんにお話を伺いに参りました。

Q まず、オープンはいつでしたか？また道の駅としての規模は？

A 本年4月17日に出来たばかりです。規模は県下に道の駅が42ございますが、その中では大きいほうですね。

Q 展示を拝見しますと、やはり地場産業が盛んというか陶器が主な商品ですね。

A オープン前の準備段階で、県内全ての道の駅を回らせていただきました。当時は37でしたが、よその駅では野菜や漬物を売っている所が多かったですね。

そこで、この駅の特徴は何だろうと考えた時、陶磁器がやはり土岐市の地域特産物であることを再認識致しました。

Q 土岐市の地場産業である美濃焼陶磁器をメイン商品にしよう、それで駅名も『志野・織部』そのままですね。

A それにこの場所は土岐市北部の丘陵地帯の一角で、安土桃山時代において茶道で使われた志野・織部の名品が生まれ出た土地なのです。

五斗蒔街道と言いますが、土岐市から久々利へ抜ける、非常に焼物に縁のある所なのです。

Q 焼物の世界でかくも有名な志野・織部の名を、格調高くまた一度聞いたら忘れない駅名にした訳ですね。

A お蔭様で4月から5ヶ月が経ちましたが、多くのお客様が遠方より足を運んで下さいます。土曜日曜には、前の通り21号線は車の渋滞が多く、ご迷惑をおかけしておりますもの大変ありがたいことです。

Q 駐車場の大きさは？

A 51台で少し狭いかとは思いますが、満車の場合は隣接する土岐美濃焼卸団地の中の駐車場をお借りしております。オープニングから美濃焼まつりにかけては本当に駐車場の件でご迷惑をおかけしましたが、いろいろとお客様から教えていただきました。土日は警備員さんが3人で誘導をいただいております。



Q しかし逆のことを考えると、立派な駅を作っても誰も来てくれなかったら寂しいですよね。満車になるなんてことはありがたい話ですよ。ところで、他府県からはおみえになりますか？

A 連休とお盆には他府県ナンバー、特に関東、関西からのお客様が多かったですね。

地域の輪を楽しむ場、情報発信の場に!!

Q だいたい道の駅の多くは伸び悩んでいるように聞いていますが、(株)志野・織部さんは4月才

オープンで既に損益分岐点をクリアされているとうかがいました。これは立派なものです。

A この駅は第三セクターではありますが、運営は民間の考え方が中心で、市には資金的な面や用地について大きな支援をいただいております。大切なのはお客様にいかにかサービスをしていくかですね。私はお客様に叱られてなんぼだと思っております。真面目に真摯な態度で接すれば、明日の進むべき方向をお客様が導いて下さるのです。

Q 駅長さんの考え方は大変謙虚で感心致しました。また、バリアフリーはもちろんのこと、身障者の方が通りやすいよう通路を広くされたとか伺いました。商品を買って下さるお客さんを優先しがちですが、まずは福祉を優先された訳ですね。

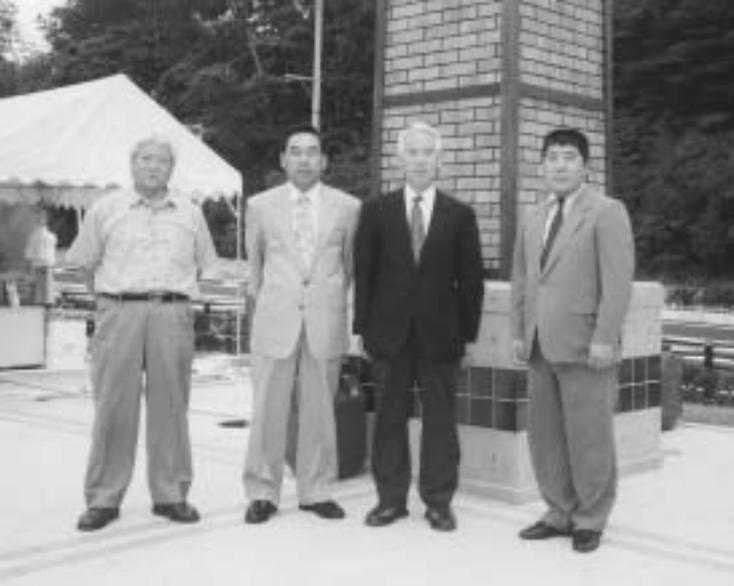
A 最近ではディサービスの介護を受けてみえる方が、1時間2時間とここで時を過ごされることが多くなりました。もちろん商品を一生懸命売らせていただき、稼がせていただく一方、地域の輪を楽しんでいただく場でありたいと思っております。

Q 物を販売するだけでなく地域の人々の交流の場にしたいのですね。オープン前に全ての道の駅を回られたという姿勢もすごいですね。自分の身体で感じる、百聞は一見にしかず、そして考える。観てきたもの・感じたものが事実ですよ。ところで駅長さんの前職は？

A 私は美濃焼陶器業界で35年4ヶ月お世話になりました。文字通り茶碗で飯を食わせていただきました。

Q 焼物に関してプロ中のプロですね。ところで展示にはほとんど携われたと聞きましたが、ご苦労された点は？

A 苦労というよりも、基本的には感性があって新鮮味のある地域を代表する商品を、そして欲しいと思われる商品を全面に出したいと思いました。一番恐れたのは、道の駅=土産物屋。これだけは一番避けたいと思いました。ボトムアップすることは非常に難しいですが、下げることは簡単に明日にも下がってしまいますから…。



Q ここへ来れば焼物のすごい物があるよと思われ
れる駅にしたかったのですね。

A 独立して商いをさせていたでいた頃、東京の江戸川から来られたご婦人がこのように言われました、「わざわざこんな物を買いにきたんじゃないのよね」。この言葉が私の胸を打ちました。値段で物を買いに来たんじゃない。産地ならではの品揃えを、鮮度があって感性のある焼物を遠方よりわざわざ足を運んで観に来られたのですよ。それなりの資金を準備はしてみえるわけです。

主流は美濃焼き、中部一番の道の駅に!!

Q 土岐市にはもう1つ道の駅、どんぶり会館がありますが、2番手として立ち上げるご苦労は？

A どんぶり会館さんは大先輩で、両方とも商品の主流はやはり美濃焼陶磁器ですが、お互い切磋琢磨しながら外に向けて情報発信してゆく場でありたいと思います。志野・織部は文化と伝統をバックボーンにしながら、『中部一番の道の駅』を目標に頑張りたいと思います。

Q 東濃には道の駅はいくつありますか？

A 8駅あります。山岡、恵那、坂下、付知、加子母、上矢作、そして土岐に2つ。

Q 近隣の多治見市、瑞浪市、可児市には1つもないわけですね。かなり刺激されるでしょうね。

A 道の駅で、これという特徴がない駅も多いのですよ。北部では冬期雪でクローズ、売る野菜もない状況ですね。その点、この駅は365日オープンして商いをさせていただけます。先日日経新聞のサンデー版に「行ってみたい焼物市」という記事

がありました。土岐美濃焼まつりで30万人を集めるとPRしておりましたが、残念ながらランクアップされていないのです。今までの美濃焼は意外と知名度が低かった、これは産地にも責任があります。PRが少なくその方向が間違っていたのではないのでしょうか？生活者にいかに近い所で商いをさせてもらうかだと思います。

Q この近辺の焼物といいますが、まず瀬戸は食器、常滑はつぼ、四日市は土鍋ですが、この地域のものといいますが、人間国宝の抹茶碗もあればびんからきりまで全てを作っている。どこかの蔵にしまっている名品をなんでも鑑定団の番組に出して、メディアでPRしてはどうでしょうね、...笑い

A マスメディアの影響力は非常に大きいですね。それは私も痛感しております。

Q 美濃焼の情報発信の場としてますます繁盛され、法人として利益を出し、税金も納めていただくよう頑張ってください。最近黒字会社が少なくなりましたから...企業経営よろしくお祈りします。

A 私も雇われマダムですが、お客様に安全快適にご利用いただき、何とか頑張りたいと思っております。辛抱・我慢に花が咲く、継続は力なり、この年になってそう思います。

今までのキャリアを活かしてますますご活躍下さい。本日はありがとうございました。

* 歴史文化サロンのコーナーでもご紹介しておりますので、是非お出かけ下さい。
(裏表紙の中頁)

